

平成22年度内閣府本府政策評価書（事後評価）

（内閣府22-72（政策19-施策①））

| | | | | | | | | |
|--------------------------------|---|------------|---------|--------------------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 施策名 | 国際平和協力業務等の推進〔19. 国際平和協力業務等の推進〕 | | | | | | | |
| 施策の概要 | 国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律（平成4年法律第79号）に基づき、国際平和協力業務等を実施する。 | | | | | | | |
| 達成すべき目標 | 国際連合を中心とした国際平和のための努力に積極的に寄与する。 | | | | | | | |
| 施策の予算額・執行額等 | 区分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度要求額 | |
| | 予算の状況 （千円） | 当初予算（a） | 683,392 | 709,888 | 739,063 | 730,191 | 679,601 | 678,021 |
| | | 補正予算（b） | 0 | △341 | 40,675 | 0 | △490 | |
| | | 繰越し等（c） | 62,285 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 合計（a+b+c） | 745,677 | 709,547 | 779,738 | 730,191 | 679,111 | 678,021 |
| 執行額（千円） | 708,078 | 639,583 | 665,896 | 676,682 | | | | |
| 施策に関係する内閣の重要政策（施政方針演説等のうち主なもの） | 施政方針演説等の名称 | 年月日 | | 関係部分（抜粋） | | | | |
| | 第177国会 菅内閣総理大臣施政方針演説 | 平成23年1月24日 | | テロ対策やPKOを含む平和維持・平和構築にも各国と連携して取り組みます。 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--------------------------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 測定指標 | 国際平和協力業務等に対する国連、現地政府等の評価 | 基準値 | 実績値 | | | | | 目標値 |
| | | - | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | - |
| | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | - | |
| | 年度ごとの目標値 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | | |

| | | |
|------------|-------------|---|
| 施策に関する評価結果 | 目標の達成状況 | <p>肯定評価が得られた。</p> <p>○平成22年度においては、UNDOF（国連兵力引き離し監視隊）、UNMIN（国連ナール政治ミッション）、UNMIS（国連スーダン・ミッション）、MINUSTAH（国連ハイチ安定化ミッション）に引き続き要員を派遣したほか（UNMINへの要員派遣については23年1月に任務を完了し帰国）、22年9月からはUNMIT（国連東ティモール統合ミッション）への軍事連絡要員の派遣を開始。また23年1月には、国際的な選挙監視活動の一環として、南部スーダン独立住民投票監視のための監視団を派遣した。</p> <p>○上記各ミッションに関し、日本の協力に対する高い評価が得られているところ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UNDOF…平成22年6月及び12月、第29次・第30次輸送隊要員及び第15次司令部要員に対し国連メダルの授与が行われた。平成22年9月にイスラエル副首相より、自衛隊の活動を評価する旨の発言があった。 ・UNMIN…平成22年7月、平成23年1月に第4次要員に対し国連メダルの授与が行われた。平成22年10月にはラングレンUNMIN代表より、我が国要員の真摯な働きぶりを高く評価する旨の発言があった。 ・UNMIS…平成22年8月にリダーUNMIS副代表より、同年9月にシャルペンティエール同副代表より、自衛隊からの要員派遣について感謝する旨の発言があった。 ・MINUSTAH…平成22年10月、ミュレ特別代表より、日本部隊の貢献は傑出しており、その成果などについて賞賛する旨の発言があった。平成23年1月25日、ハイチ国際平和協力業務に従事する自衛隊施設部隊が建設していたマルバセ孤児院宿舍等の引渡式が催され、孤児代表からお礼のメッセージを受領した。 ・UNMIT…平成22年10月、ハクUNMIT特別代表より、これまでの自衛隊の活動を高く評価し、軍事連絡要員の新規着任を歓迎する旨の発言があった。平成23年3月、ラモス=ホルタ大統領より第1次要員に対し東ティモール連帯メダルの授与、ハクUNMIT特別代表より国連メダルの授与があった。 ・スーダン住民投票監視…平成23年2月、南部スーダン住民投票暫定結果発表に際する式典において、南部スーダン住民投票委員会委員長から日本を含む国際選挙監視団に対して謝辞が述べられた。 |
| | 目標期間終了時点の総括 | <p>【目標の達成状況の検証】</p> <p>各ミッションにおいて、大きな事故もなく、適切にミッションをこなし、国際社会の平和と安定に貢献していると評価できる。特に平成22年度においては最大6ミッションを並行して実施するなど、事務局創設以来の最大規模のミッションを遂行し、各ミッションに関して国際社会から高い評価が得られたことは、大きな実績である。また、我が国は、現地のニーズに応じたきめ細やかな派遣を心がけており、例えば22年10月にハイチにおいてコレラが発生した際、MINUSTAHの感染防止対策に自衛隊部隊が協力できるよう、実施計画に医療業務を追加する等、迅速かつ柔軟な対応を行った。さらに、東ティモールにおいては、UNMITに対して、個人派遣要員として初めて女性自衛官を派遣し、高い評価を得た。（国連は女性の登用を推進している）</p> <p>こうした活動の結果、国内における国連平和維持活動への参加についての考え方に肯定的な評価が増えてきている。例えば、平成22年度外交に関する世論調査によれば、国連平和維持活動への参加について、「これまで程度の参加を続けるべきだ」、「これまで以上に積極的に参加すべきだ」と答えた者の割合の合計が、平成20年度には76.7%、平成21年度には80.4%、平成22年度には85.2%と、確実に増加している。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き、新規案件の検討を随時行うとともに、法に基づき各種ミッションを着実に実施していくこととする。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| 学識経験を有する者の知見の活用 | <p>○新たな時代における日本の安全保障と防衛力の将来構想―「平和創造国家」を目指して― (2010年8月 新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会 (内閣総理大臣決裁に基づき開催)) P30 第2章第5節(3)⑤第1パラグラフ 「自衛隊の本来任務となった国際平和協力活動は、グローバルな安全保障環境の改善に寄与し、同時に日本のプレゼンスを国際社会に示すという重要な課題であり、今後さらに積極的に参加していくべきである。」 P35 第3章第3節①第2パラグラフ 「また、長年にわたって国内外での災害救援・人道支援活動、PKO等が実績を上げてきた・・・」</p> |
|-----------------|--|

| | |
|---------------------------|---|
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 | <p>○外交に関する世論調査 http://www8.cao.go.jp/survey/index-gai.html</p> |
|---------------------------|---|

| | | | | | |
|-------|-------------|--------|---------------|----------|---------|
| 担当部局名 | 国際平和協力本部事務局 | 作成責任者名 | 参事官 荒木 潤一郎 | 政策評価実施時期 | 平成23年9月 |
|-------|-------------|--------|---------------|----------|---------|